

國際法外交雜誌

第105卷4号(2007年1月)

論説

国際テロリズムと国際法理論

— 植木 俊哉 (東北大学教授) …… 1

国籍法における本人の意思

— 佐野 寛(岡山大学教授) ……21

国内秩序と国際秩序の《二重の再編》——政治的共存の秩序設計——

— 石田 淳 (東京大学教授) ……44

国連平和構築委員会の設立 —— 新しい国際社会像をめぐる葛藤 ——

— 篠田 英朗 (広島大学助教授) ……68

The Evolution of the CSCE/OSCE and its Relations with Japan

— Takako UETA (Professor, International Christian University) ……94

資料

判例研究・国際司法裁判所

カタールとバーレーン間の海洋境界画定および領土問題事件 (本案判決) (2001年3月16日)

— 国際司法裁判所判例研究会 ……122

国連国際法委員会第58会期の審議概要

— 山田 中正 (国際法委員会委員) ……150

国連国家免除条約

— 山田 中正 (国際法委員会委員) ……213

紹介

高桑 昭著

『国際取引における私法の統一と国際私法』

— 齋藤 彰 (神戸大学教授) ……244

会報

国際法学会2006年度（第109年次）秋季大会 ……249

主要文献目録について ……274

総目次 ……282

第105巻3号(2006年11月)

論説

国境を越えた企業合併・買収と国際法

— 中谷 和弘（東京大学教授） …… 1

国際法における緊急状態理論の歴史的展開と実証性

—— 武力行使への適用可能性の問題を中心に ——

— 山田 卓平（神戸学院大学助教授） ……24

Factors Affecting Asian FTA Practices

—— An Approach to Surmount Difficulties ——

— Chang-fa LO(Professor, National Taiwan University) ……46

研究ノート

WTO協定を改正する際の国際法上の論点

—— ラウンド交渉による政治的合意の法的効力を確保するための方策 ——

— 小林 友彦(経済産業省通商政策局通商機構部参事官補佐) ……68

資料

国際法協会第72回（2006年）トロント（カナダ）大会報告 ……93

書評論文

国際的保護と現代国際法構造

— 川村 真理（杏林大学講師） ……102

紹介

栗林忠男・杉原高嶺 編『海洋法の歴史的展開』

— 藤田 久一（関西大学教授） ……113

村瀬信也 著『国際法の経済的基礎』

— 位田 隆一（京都大学教授） ……121

安藤泰子 著『国際刑事裁判所の理念』

— 真山 全（防衛大学校教授） ……126

宮脇昇 著『CSCE 人権レジームの研究

—— 「ヘルシンキ宣言」は冷戦を終わらせた』 ——

— 大島 美穂（津田塾大学助教授） ……133

上杉勇司 著『変わり行く国連PKOと紛争解決 —— 平和創造と平和構築をつなぐ』

— 星野 俊也（国際連合日本政府代表部公使参事官） ……141

第105巻2号(2006年8月)

論説

国連平和維持活動（PKO）の新たな展開と日本 —— ポスト冷戦期の議論を中心に ——

— 酒井 啓宣（京都大学教授） …… 1

日本による島嶼先占の諸先例 —— 竹島／独島に対する領域権原を中心として ——

— 朴 培根（釜山大学校法科大学副教授） …… 32

研究ノート

ジュネーブ諸条約及び第一・第二追加議定書に関する日本の国内法制

—— 国際法と国内法とのインターフェイスの諸相 ——

— 相木 俊宏（外務省国際法局経済条約課長兼社会条約官） …… 48

国連における人間の安全保障概念の意義 —— 規範としての位置づけをめぐって ——

— 庄司 真理子（敬愛大学教授） …… 77

書評論文

国際関係論の構成主義的転回と国際法学

— 郭 舜（東京大学助手） …… 111

資料

判例研究・国際司法裁判所

1999年8月10日の航空機墜落事件（パキスタン対インド）

—— 管轄権 ——（判決：2000年6月21日）

— 国際司法裁判所判例研究会 …… 123

主要文献目録

国際法 — 柴田明穂・黒神直純 …… 133

国際私法 — 神前 禎・佐藤文彦 …… 160

国際政治・外交史 — 和田龍太・竹村 卓 …… 170

会報

国際法学会2006年度（第109年次）春季大会 …… 186

第105巻1号(2006年5月)

論説

日本の「戦後補償裁判」と国際法

— 五十嵐 正博（神戸大学教授） …… 1

Compensation for Victims of War ——

German Practice after 1949 and Current Developments

— Rainer HOFMANN（Professor, Johann Wolfgang Goethe-University） …… 29

日本をめぐる戦後補償裁判における国際私法上の諸問題 —— 処理枠組みの素描 ——

— 中西 康（京都大学教授） …… 48

冷戦終焉後の北方領土問題

— 塚本 孝（国立国会図書館参事） …… 71

研究ノート

WTOにおける立証責任の分配

— 高島 忠義（愛知県立大学教授） ……99

紹介

村瀬信也 著『国際立法——国際法の法源論』

— 薬師寺 公夫（立命館大学教授） ……125

荒木一郎／川瀬剛志 編著『WTO体制下のセーフガード：実効性ある制度の構築に向けて』

— 柳 赫秀（横浜国立大学教授） ……133

論説

国際テロリズムと国際法理論

— 植木 俊哉（東北大学教授） …… 1

国籍法における本人の意思

— 佐野 寛（岡山大学教授） ……21

国内秩序と国際秩序の《二重の再編》——政治的共存の秩序設計——

— 石田 淳（東京大学教授） ……44

国連平和構築委員会の設立——新しい国際社会像をめぐる葛藤——

— 篠田 英朗（広島大学助教授） ……68

The Evolution of the CSCE/OSCE and its Relations with Japan

— Takako UETA (Professor, International Christian University) ……94

資料

判例研究・国際司法裁判所

カタールとバーレーン間の海洋境界画定および領土問題事件（本案判決）（2001年3月16日）

— 国際司法裁判所判例研究会 ……122

国連国際法委員会第58会期の審議概要

— 山田 中正（国際法委員会委員） ……150

国連国家免除条約

— 山田 中正（国際法委員会委員） ……213

紹介

高桑 昭 著

『国際取引における私法の統一と国際私法』

— 齋藤 彰（神戸大学教授） ……244

会報

国際法学会2006年度（第109年次）秋季大会 ……249

主要文献目録について ……274

総目次 ……282